

折り紙展示

無料

折り紙で彩る 源氏物語の世界

2010年

4/30 (金) ~ 6/26 (土)

9時~21時 エセナおおた2階談話コーナー

~千年の時空を超えてよみがえる雅な平安絵巻~



光源氏と源氏をめぐる人々の愛の物語が、美しい折り紙の世界で表現されます。今回は源氏物語全54帖に出てくる人物をあらわした作品を一挙に展示します。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。

主催:大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」 共催:大田区

この事業はNPO法人男女共同参画おおたが区の補助を受けて実施しています。

平安時代の男性・女性

この時代の結婚は一夫多妻で、夫は自分の家から妻の家に通い婚でした。妻の家では婿が決まると、その衣装や、来たときの食事、役人ならそこで必要な交際費から上役への付け届けまで、一切合財面倒をみななければいけません。

婿は家柄がよくて、将来出世する才覚がなければなりません。人柄も大切ですが、学問以外に趣味も身につけていないと馬鹿にされます。香道や楽器の一つくらい演奏できるのも男のたしなみでした。

高級貴族の姫君と呼ばれる娘は、不器量であろうが何であろうが、女ならいつでも後宮にあがれるよう、小さい時から教養をつけさせられます。貴族の家庭では、子どもは妻が産みっぱなしで乳も与えません。しかるべき乳母を雇って、乳母が乳を与えて育てます。

姫君の教養というのは、和歌を作れること。「古今集」などの和歌を覚えること。それを書く字を習うこと。手紙はすべて和歌に託して書くのです。恋文も和歌です。その他音楽を習得します。琴、琵琶、笛などの楽器を一つ堪能でないといけません。香道などもわきまえていて、ブレンドの仕方も知っていることが「教養が高い」とされました。裁縫も、染色も一通り心得ていないといけません。

瀬戸内寂聴「源氏物語の女性たち」

●お問い合わせ先

〒143-0016

大田区大森北4-16-4

大田区立男女平等推進センター

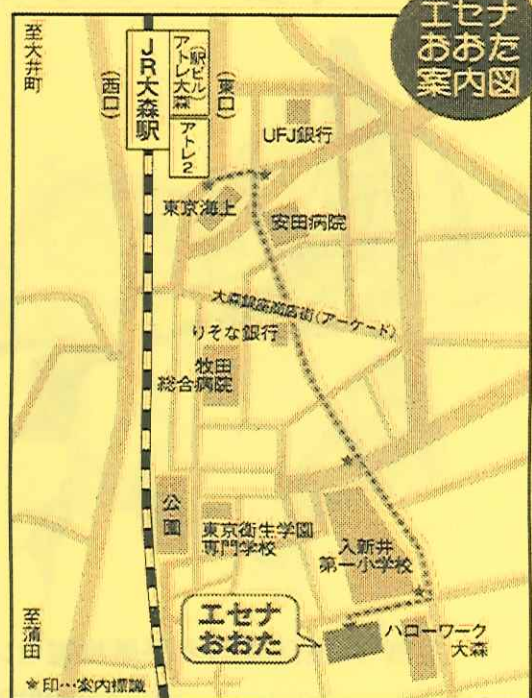
「エセナおおた」

電話 03-3766-6587

FAX 03-5764-0604

HP : <http://www.escenaota.jp>

e-mail : escena@escenaota.jp



★印…案内標識
●JR大森駅から徒歩8分。駐車場はありません。